

市民が未来に希望を持ち、
安全で安心して暮らすことのできる
魅力あるまちの創造

一般会計

歳入

会計年度内に入ってくるお金

科目別	収入金額
総額	657 億円
市税 (市民税・固定資産税など)	434億 310万円
市債 (市の借入金)	40億7,800万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	40億2,294万円
諸収入 (貸付金元利収入など)	37億6,123万円
県支出金 (県からの補助金など)	25億 608万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	18億4,996万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	14億5,281万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	10 億円
繰越金 (前年度からの繰越金)	10 億円
地方消費税交付金 (県から交付される消費税)	9億8,000万円
自動車取得税交付金 (県から交付される目的税)	7億5,700万円
その他	8億8,888万円

歳入の三分の二は市税

一般会計の歳入で一番多いのは、市民の皆さんから納めていただく市民税や固定資産税などの市税で、全体の六六・一%を占めています。

市税収入は、税制改正による市民税の特別減税の廃止などで収入増はありますが、景気の急速な回復が期待できない上、固定資産税の評価替えで減収となることから、大きな伸びは期待できない状況です。

富士市では、税金などの自主財源は七八・六%。借入金や国の補助金などの依存財源は一・四%となっています。

歳出

会計年度内に使うお金

科目別	支出金額
総額	657 億円
土木費 (道路や公園などの整備に)	123億1,474万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	109億 667万円
民生費 (高齢者、児童などの社会福祉に)	108億9,192万円
公債費 (借りたお金を返すために)	80億 445万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	76億8,392万円
総務費 (庁舎管理や人件費などに)	63億2,708万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	33億3,540万円
労働費 (働く人のために)	19億4,906万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	19億3,155万円
商工費 (商業や工業のために)	16億8,224万円
議会費 (議会の運営のために)	5億6,826万円
その他	1億 471万円

歳出のトップは土木費

歳出を目的別に見ると、土木費が四年連続のトップで、歳出の一八・七%を占めています。土木費の主なものには、都市計画街路や市道の新設・改良、河川の改修などがあり、快適なまちづくりのために使われます。

次に多いのは教育費で、平成十年年度の開校を目指して整備を進めている青葉台小学校の建設や富士中学校の改築、(仮称)岩松北公民館の新築などが、大きな事業となっています。

そのほか、福祉や生活環境の整備、防災対策など、住みよいまちづくりのために使われます。

一般会計	657億円
特別会計	421億6,568万円
企業会計	169億7,417万円
合計	1,248億3,985万円

市の予算には、一般会計と特別会計、企業会計があります。

一般会計とは、市税収入を主な財源として、道路、教育、福祉などの行政の基本的な事業に使う会計のことです。

特別会計は、一般の歳入・歳出と切り離し、特定の事業ごとに分けて経理をしており、富士市には、16特別会計と2企業会計（水道事業・病院事業）があります。

特別会計

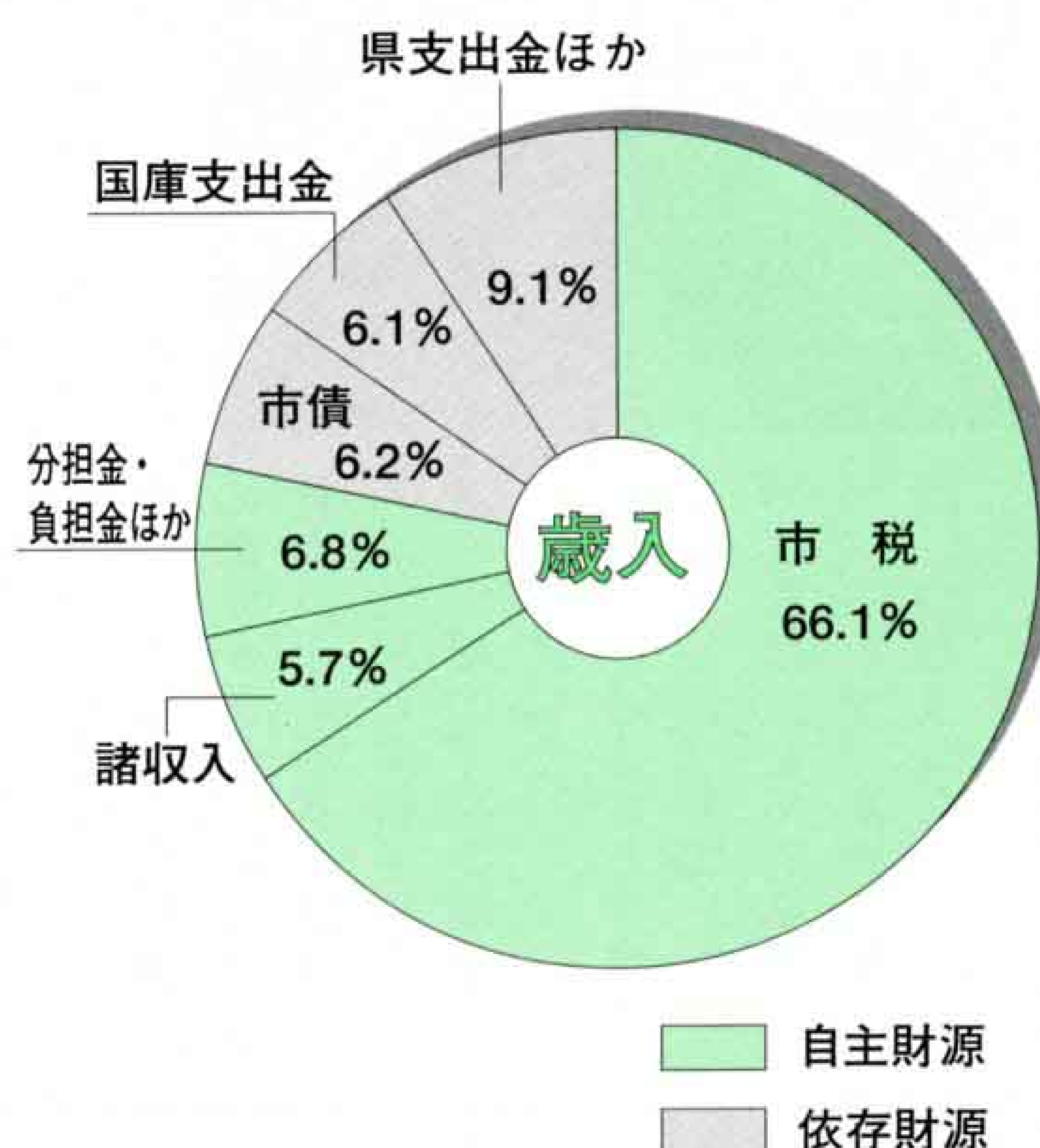
特別会計の予算額

421億6,568万円

特別会計区分	予算額
老人保健医療事業	132億1,200万円
国民健康保険事業	125億200万円
下水道事業	85億300万円
公共用地先行取得事業	66億5,648万円
富士中部土地区画整理事業	6億800万円
地方卸売市場事業	2億1,700万円
駐車場事業	6,500万円

上の表では、財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略してあります。

財源別歳入 657億円



企業会計

水道事業の予算額

44億343万円



病院事業の予算額

125億7,074万円



目的別歳出 657億円

